
突然現れた宇宙人

五十六

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

突然現れた宇宙人

【Nコード】

N7131H

【作者名】

五十六

【あらすじ】

京極町という北海道の田舎町に住んでいる水上茜達の前に可愛くて変な女の子の宇宙人が現れた。平和な京極町がちょっとにぎやかになりそうです。

ぶろろぐ（前書き）

京極町は実際にある町です
作者も何度か訪問しています。

ぶろろぐ

- 京極町 -

おそらく日本国民の半分も知らなそうな町、
羊蹄山（蝦夷富士）の麓にありふきだし公園で汲める水は名水。
緑豊かで都会人からみればドがつくほどの田舎、農業が盛ん、
約3000人が生活している。

ジリリリ…

「ん…んん…ふぁ？」

国道276号線沿いに存在するとある一軒家に
小学6年生の女の子が住んでいた

「…でえ！！もう7時！？」

「遅刻だぁ！！」

少々寝坊したようだ

「んもお！なんで起こしてくれなかったのよお母さん！」

「起こしたわよ、でも貴女が起きないのが悪いんでしょ？」

「お姉ちゃんのお寝坊さん」

「雄太！アンタはだまってなさい！」

雄太とは小学3年生の弟である
なにかとむかつくらしい

「いってきまーす！」

「ちよつと？朝ご飯は？」

「食べてる暇ないわ！」

ボタン！

大急ぎで鞆を手に取り家を出て行ってしまった
そんな彼女の名前は水上茜みなかみあかね
本日学校に行けばもう夏休み

小学校は市街地を抜けて方向をかえずずっとまっすぐいったところ
にある

都会と違い交通量が少ないので横断歩道を渡らなくても
さほど危険ではない、流石は田舎町といえよう

さて、茜はそろそろ小学校に到着したところである

「はあ……」

暑いので走る気からおきない
小走りできたらちよつとつかれた

「ふ、遅刻野郎」

「なっ！啓太！！」

にしもとけいた
西元啓太、よくいる
馬鹿キャラ

ちよつと茜に興味があるっぽく
まあ子供なのでからかうのが最大のアピールだった

「いつそくたばれえ！」

「女の癖に口きたなねえんだよ！」

「誰のせいじゃあ！」

「やれやれ」

あきれた表情をしているのは
しいなっほみ
椎名薔 茜の親友である

・そんなことはさておき数時間後・

「みんなあ！朝から夏休みだけど
早寝早起きして規則正しい生活してついでに2学期になったらく
れるお土産

買っておいてくれな！」

なにかと暴走気味な人
中濃美智子23歳独身、親の前だと立派な人なのに
普段は正直どうして教師が務まるのか疑問になるほど
テンションが高くまた休み明けにはとにかく児童にお土産買ってね
と要求する人だ

ちなみに恋愛話になると急に暗くなるのはお約束

「じゃあ、またね」

友と別れを告げた茜は
自宅に帰った

「ただいま」

「おかえり」

ひとまず茜は自分の部屋にむかった

「ふあゝ、終わった終わった」

いよいよまちにまつた夏休みであつた
んで、その後

「おひるよ」

「はい」

午前で終わったので昼食がまだだった
父は単身赴任でいないけど家族3人でワイドショーでもみながら
昼ご飯を食べた

…が

「臨時ニュースでございます、札幌駅上空に普通の一軒家二軒分の

大きさの円盤が現れました」

その規模は…

「随分半端な規模ね…」

誰もがあきれた

…というよりこのテレビ捏造じゃないのかとすら思った

「中継！針田さんです！ 針田さん？」

「はい！こちらヘリコプターで並んで飛んでいます！」

「いやあ半端な規模ですね！これはどこにむかうのでしょうか！？」

ビッ！

「あつ！針田さん！？針田さん！？」

突然中継が途切れた

（や…やられたあああ！）

漫画でいうがびぐんな状態だった

「最近のニュースには今の針田さんみたいな

根性ある人が直接現場にいかないからつまんない」

「でも針田さんはたくましかったわ」

「お母さんそういう問題じゃないでしょ！」

「そういう問題よ！」

目をきらきらさせながら

妙な笑顔で勢いよく答えたお母さんに
ちよつと面白かったのか鼻で笑った茜

だが

「母ちゃん！姉ちゃん！上！」

「どうしたのゆう…げえ！？」

茜が目にしたのはさっきの
円盤だった

「嘘お！さっき札幌にいたのになんでここから最低来るまで一時間
以上も

走らなきゃつかない札幌の南区よりももっと北にあるところから
すぐにここまできたのよ！？」

「これは…写真に写せば賞金も夢じゃなわ！」

そついつて激写する母だったが

「そんなことしてる場合じゃないでしょお母さん！」

「なんか家って母ちゃんより姉ちゃんのほうがしっかりしているよ
ね」

「雄太あ、アンタたまにはいいこというのね」

ピカア

「きゃあ！まぶしい！！」

激しい閃光が突然

僅か5秒後には足音がした

「…ほえ？」

茜が片目をあけるとそこには

漫画でみるようなお姫様のような格好をしている自分と
同年ぐらいの女の子がたっていた

「…あ…あの…貴女は？」

母、美智子が問う

その時

ガシッ！

「きゃあ！！」

「茜！？」

突然少女は茜の肩に手を置いた

「はじめまして！メントスとコーラを合わせると噴射するよ宇宙王
国から

きましたメントスとコーラを合わせると噴射するよ宇宙王国の王女
クリスティナ・フォン・山田ブルクと申します」

「国名ながい！名前ひどい！！」

国名：メントスとコーラを合わせると噴射するよ宇宙王国
名前：クリスティナ・フォン・山田ブルク

（な、なによ、見た目は可愛いのになによクリスティナって！？
なによフォンって！？なによ山田ブルクって！？）

（アンタ何人よ！？）

メントスとコーラを合わせると噴射するよ宇宙王国人です

「実は宇宙旅行をしていたら宇宙船が故障しまして
そこで多少の文明がある地球に不時着したのです」

（ふ、不時着！？）

「そういうことだからその裏山に宇宙船
とめておくね」

「いやまってよ許可とったの！？」

「なにそれ？」

犯罪者であつた

しかし宇宙船は誤作動して中山峠に不時着してしまった
幸い道路は封鎖されなかったが…

「…」

家族三人は言葉が出なかった…が！

「えへ」

「く…クリスティナ・フォン・山田ブルク!？」

彼女だけ残った

「とりあえず父の命令で学校に通うことになったのでここにすませてくださいね」

「えええええ!!？」

不可解である

こうしてとんでもない事件が影響でクリスティナ・フォン・山田ブルクが新たに家族(?)となった

ぶろろぐ（後書き）

御意見・御感想随時お待ちしております

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7131h/>

突然現れた宇宙人

2010年10月15日06時25分発行